



仙台市科学館 蒲生調査レポート 速報版

No.149

〒981-0903 仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館 事業係
TEL:022-276-2201 FAX:022-276-2204
<http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/>

2017.8.11

長雨の影響

■長雨による塩分濃度の低下の可能性

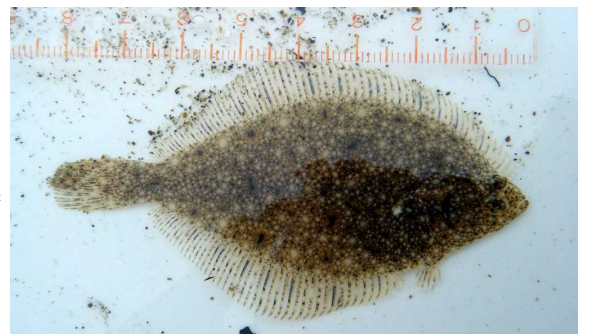
7月末から8月中旬まで宮城では雨の降らない日はなく、日照時間も大変短い。この長雨の影響と思われるのがFig.1のウシガエルの幼生（おたまじゃくし）である。七北田川河口で採集した個体で、2011年からの調査において初めて観察した両生類である。上流の淡水域から流されてきた個体と考えられるが、カエル等の両生類は塩分に対する耐性が低く、海に生息する種は存在しない。長期にわたる降雨により両生類が生息できるほど河口の塩分濃度が下がったと考えられる。



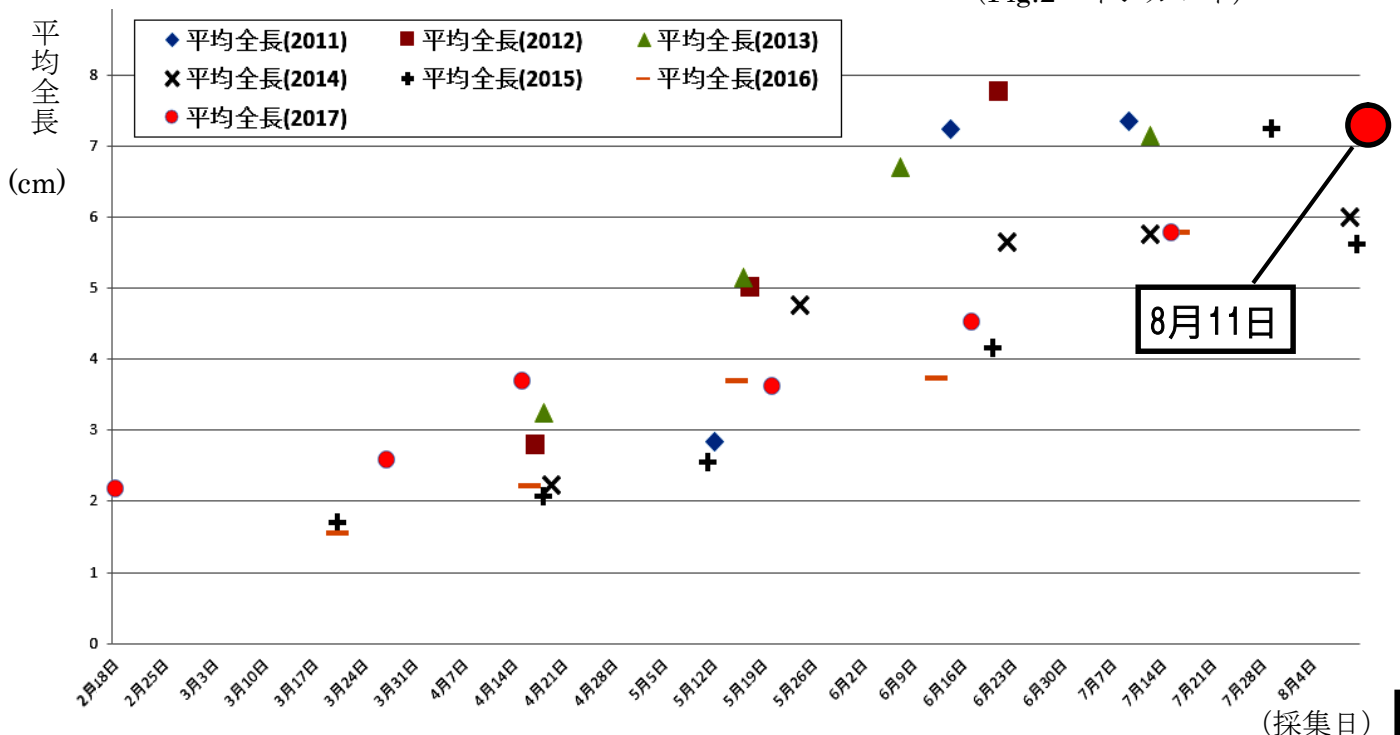
(Fig.1 ウシガエルの幼生)

■イシガレイは外海へ

今回の調査ではイシガレイの稚魚は2匹しか採集できなかった。全長は6.0cmと8.5cmでFig.2は8.5cmの個体である。これまでの調査で、イシガレイは7～8月に8cm程度に成長し外海へ移動すると考えられる。Table.1はこれまでのイシガレイの採集日と平均全長で、個体数は少ないが今回の調査のデータも加えてある。8.5cmの個体はいつ外海へ移動してもおかしくない大きさであり、多くのイシガレイは外海へ移動したと思われる。



(Fig.2 イシガレイ)



(Table.1 採集日と平均全長)

(佐藤 賢治)